

埋文にいがた

No. 61
2007. 12. 26

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

19年度発掘調査遺跡の紹介

やまきし 山岸遺跡

たぶせ
(糸魚川市田伏字山キシ863ほか)

山岸遺跡は、日本海から約400m内陸の丘陵に挟まれた標高10～15mの谷の中に立地しています。発掘調査は、北陸新幹線および国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い平成18年度から開始し、平成19年度は14,700㎡を調査しています。遺跡は縄文時代から安土・桃山時代にかけて断続して営まれており、主体は鎌倉時代から室町時代(13～14世紀)です。

鎌倉時代から室町時代初めの遺構は、調査区南側から西側にかけての丘陵の谷部で掘立柱建物、井戸、土坑、溝、石列、庭園などが見つかりました。そのうち西側の谷部では盛土して平坦に整地し、その上に梁行4間(8.7m)×桁行7間(14.2m)や梁行5間(11.3m)×桁行7間(14.0m)の大

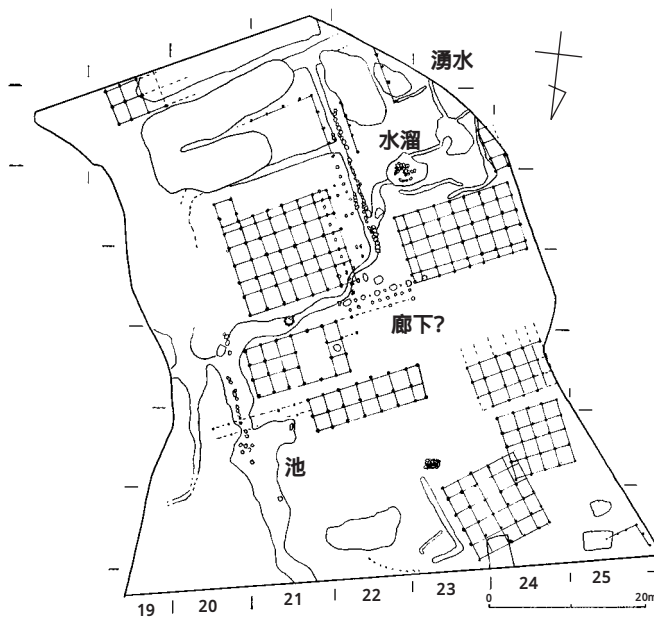


図1 山岸遺跡2区遺構模式図(写真1の左奥)



写真1 調査区全景(手前は新幹線保守基地、右奥は国道8号バイパス用地)